

科目名	文化財保存論	英語科目名	Conservation of Cultural Assets
開講年度・学期	平成 22 年度・後期	対象学科・専攻・学年	建築学専攻 2 年
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	2	単位種類	学修単位(15+30 時間単位)
担当教員	柴田晃宏	居室(もしくは所属)	建築学科棟 2 階デザインスタジオ内
電話	0285-20-2843	E-mail	khrshbt@oyama-ct.ac.jp
授業の達成目標			
1. 文化財保護, 建築再生の概要が説明できる。 2. 地元の文化財や歴史的町並みの現状を説明できる。 3. 文化財保護, 建築再生の創造的提案ができる。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標 1 は、文献調査の発表内容を設定水準で評価する。 達成目標 2 は、実地調査の発表内容を設定水準で評価する。 達成目標 3 は、提案課題に対する提案書の内容を設定水準で評価する。			
評価方法			
評価は下記のことを考慮して総合的に行う。			
1. 文献調査課題の内容(20%) 2. 実地調査課題の内容(20%) 3. 提案課題の内容(60%)			
授業内容	授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間
1. 文化財保存, 建築再生に関する概論	1. 文化財保存, 建築再生に関する復習		4
2. 文化財保存, 建築再生に関する既往研究 1	2. 既往研究の調査とレポート作成		4
3. 文化財保存, 建築再生に関する既往研究 2	3. 既往研究の調査とレポート作成		4
4. 文化財保存, 建築再生に関する事例調査 1	4. 保存再生事例の調査とレポート作成		4
5. 文化財保存, 建築再生に関する事例調査 2	5. 保存再生事例の調査とレポート作成		4
6. 文化財保存, 建築再生の実地調査 1	6. 地元文化財や再生を必要とする建築の調査レポートの作成		4
7. 文化財保存, 建築再生の実地調査 2	7. 地元文化財や再生を必要とする建築の調査レポートの作成		4
8. 文化財保存, 建築再生の実地調査 3	8. 地元文化財や再生を必要とする建築の調査レポートの作成		4
9. 文化財保存, 建築再生の実地調査 4	9. 地元文化財や再生を必要とする建築の調査レポートの作成		4
10. 文化財保存, 建築再生の提案検討 1	10. 再生提案の検討エスキスの作成		4
11. 文化財保存, 建築再生の提案検討 2	11. 再生提案の検討エスキスの作成		4
12. 文化財保存, 建築再生の提案検討 3	12. 再生提案の検討エスキスの作成		4
13. 文化財保存, 建築再生の提案作成 1	13. 再生提案書の作成		4
14. 文化財保存, 建築再生の提案作成 2	14. 再生提案書の作成		4
15. 文化財保存, 建築再生の提案発表	15. 再生提案についての再考察		4
自学自習時間合計			60
キーワード	歴史、文化財、建築再生、デザインサーベイ		
教科書	特になし、		
参考書	五十嵐 太郎他 リノベーションの現場(彰国社 2005) 10+1 No.21「トーキョー・リサイクル計画」(INAX 出版 2000) 降幡 広信 民家再生の設計手法(彰国社 1997)		
小山高専の教育方針①～⑥との対応	⑥		
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(C-2)(E-1)			
JABEE 基準 1 の(1)との関係	b, d(2-a)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	建築史		
現学年の関連科目	まちづくり論、近代建築思潮史		
次年度以降の関連科目	なし		
連絡事項			
1. 課題は、適宜授業時に提示する。 2. 文化財保護は行政組織から様々なレベルで行われているが、昨今ではそれだけではなく、一般的な建築の保全や再生が大きな課題となっている。スクラップアンドビルドではないストックからの建築提案の方向性を考えてほしい。 3. また、地元の文化財や再生を必要とする建築を調査し、その活用を考えてほしい。			
シラバス作成年月日:平成 22 年 8 月 25 日			